



企画展

Museum Collection Exhibition

物語る絵画

ねはんず 湍槩図・源氏絵・舞の本…

Japanese
Narrative Paintings



源氏物語や平家物語など人気を博した物語は、成立後ほどなくして絵画化がはじまったと考えられています。冊子の挿絵から、詞書と絵が交互に配置された絵巻物や画帖へ、さらには絵のみが独立して掛軸や屏風などの大画面にも描かれるようになりました。それら大画面の物語絵画の多くは複数の場面を組み合わせますが、場面の選択は一様ではなく、その順序は必ずしも物語の筋に沿っているわけではありません。たとえば、場面の季節に注目して、春夏秋冬の順に配置することさえありました。また、特定の一場面のみが画題として定着したものもあり、表現形式はじつに多種多様です。

この展覧会では、物語の範囲を、作り物語や軍記物から、湍槩図をはじめとする仏教説話や高僧伝、あるいは能、幸若舞やお伽草子にまで広がっています。初公開の作品を含む館蔵品に、近年出現した伝 岩佐又兵衛筆「妖怪退治図屏風」（個人蔵）を加えたラインナップは変化に富んだ内容となりました。異なったジャンルに共通して語られる物語もあり、登場人物の変容も見どころです。絵画化されたさまざまな物語を味わいながら、いにしえの人々が物語のどのような場面に心惹かれたのかということにも思いをはせてお楽しみください。

2023年 **7月15日(土) ~ 8月20日(日)** **日時指定予約制**
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM





重要文化財
ぶつねほんず
仏涅槃図（部分）
ぎょうゆう せんゆう
行有・専有筆
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代 康永4年（1345）
根津美術館蔵

涅槃図は、釈迦がインド・クシナガラくしながらの跋提河ぼったいがのほとりで亡くなる情景を描いたもの。母の摩耶夫人まやふにんが天から駆けつける様子や、弟子・俗人・動物たちが悲嘆にくれる様子を表す。軸木の墨書銘から制作年と筆者が明らかな基準作。



うきふねずびょうぶ
浮舟図屏風
6曲1隻 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

恋する浮舟を宇治の山莊やまぢょうから連れ出した匂宮におうのみやは、小舟で対岸の別莊へと向かう『源氏物語』の一場面。舟を大きく斜めにとらえた不安定な構図が、浮舟の行く先の運命を象徴する。



初公開
まいほんえほんだんかん
舞の本絵本断簡
433丁 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

42番組あつらで誂えられた、幸若舞こうわかまいの台本を読み物とした絵本。丁ごとに切り離され、詞のみの丁は失われたが433丁が伝わり、絵画化の少ない曲も含む。図版は『張良ちやうりやう』の一場面。

— 幸若舞とは —

室町時代に興った芸能で、語りを伴う舞曲。織田信長が桶狭間の戦いの前に舞ったとされるのが幸若舞の『敦盛』で、「人間五十年、下天のうちをくらぶれば…」の句は熊谷直実くまがいのおぢねの台詞である。幸若舞の台本を読み物に転用したものが「舞の本」で、絵本や絵巻物として普及した。



ようかいたいじずびょうぶ いわさまたべえ
妖怪退治図屏風 伝 岩佐又兵衛筆
8曲1隻 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
個人蔵

能の『田村』で語られる、田村丸（坂上田村麻呂）の鬼退治の場面であることが最近判明した。鬼神たちに降りかかるおびたしい矢は、白旗の上方に現れた千手観音の手から放たれたもの。観音の存在を金泥の光線が暗示する。



(部分)



こうやだいいしぎょうじょうず え
高野大師行状図画 巻第二(部分)
9巻のうち 紙本着色
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

初公開

ぎおう そとぼこまちずびょうぶ
祇王・卒塔婆小町図屏風
2曲1隻 紙本着色
日本・江戸時代 18～19世紀
根津美術館蔵

『平家物語』の、襖障子に和歌を残して清盛の屋敷を去る白拍子の祇王と、能の『卒塔婆小町』の一場面を対置した珍しい組み合わせの屏風。初公開。



弘法大師の伝記とその奇蹟を絵画化した十巻本の絵巻だが、巻第一を欠く。図は童子（文殊菩薩の化身）が書いた龍の字が真龍となった場面。

表面の作品

- 上：浮舟図屏風(部分) 日本・江戸時代 17世紀
- 左下：酒吞童子絵巻(部分) 住吉弘尚筆 日本・江戸時代 19世紀
- 右下：重要文化財 絵過去現在因果経(部分)
(画)慶忍・聖衆丸筆 (写経)良盛筆 日本・鎌倉時代 建長6年(1254)
いずれも根津美術館蔵

展示室5 物語で楽しむ能面

能の演目には、世によく知られた物語を典拠とした演目が数多くあります。登場人物の心理を描きだすために重要な役割を果たす能面の魅力を紹介しします。

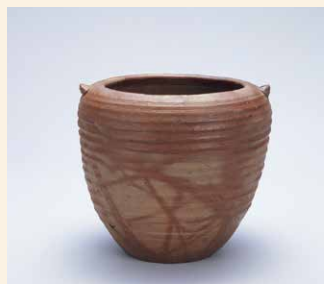


はんにか でめとうすい
般若 焼印「出目洞水」
1面 木胎着色
日本・江戸時代 享保7年(1722)
根津美術館蔵

二本の角、牙がのぞく口は、野獸的な憤怒の表現にあふれ、しかめた眉間は悲しみと怒りが相半ばする。「道成寺」など嫉妬に狂う女役に用いる。

展示室6 盛夏の茶事

夏の暑い盛り、亭主は涼しさを感じさせる道具を取り合わせ、茶席で客をもてなします。季節を楽しむ茶道具約20件をご覧ください。



ひだすきみつきみずまし
緋襷耳付水指 備前
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

備前焼の茶道具はたっぷり濡らすことで、茶席に涼感をもたらす。本作は胴に巻かれた藁と土が反応し「緋襷」と呼ばれる鮮やかな赤が帯状にあらわれたもの。

開催概要

展覧会名	企画展「物語る絵画 — 涅槃図・源氏絵・舞の本… —」
日時指定予約制	スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページでの日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)
主催	根津美術館
開催期間	2023年7月15日 [土]～8月20日 [日]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日、ただし7月17日(月・祝)は開館し、翌18日(火)は休館
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ・当日券(一般1400円、学生1100円)も販売しております。 (ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。 混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。) ・2023年7月11日[火]より当館ホームページで予約を受け付けます。 ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536 (代表) website https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所/村岡 Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展 企画展「甲冑・刀・刀装具 — 光村コレクション・ダイジェスト —」 2023年9月2日 [土]～10月15日 [日]



根津美術館が所蔵する実業家・光村利藻^{みつむらとしも}の蒐集した刀装具を中心とした秀逸なコレクションを、甲冑も含めてあらためて紹介します。「黒草肩取威腹巻」は2022年度の重要文化財指定後、初公開となります。

左: 重要文化財 黒草肩取威腹巻^{くろかわかたどりおびのほらまき} 日本・室町時代 16世紀
右: 波兔図鐔 篠山篤興作^{なみうさぎずつば ささやまとくおき} 日本・江戸時代 文久2年(1862)
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.5.)